

2021/8/5

(うとQ世話し「一般論」論考)

窮地に立たされている時にその解として一般論を言われること程虚しく且つ苛立たしい気持ちにさせられるものはない様な気がします。

又、何十年も前の成功体験から導き出された「当時の正解」を、何十年も経って時代が変化しているにも拘わらず、今に当てはめて「一般論ですが」と断りつつも、まことしやかに恭しく言われるのもどうかと思います。

更に又、男女間の話において個別カップルの話でしかないものに対して一般論を述べること程役に立たない事もない様な気がします。

それでは各人各様でしかない物に対して、或いは平時ならぬ戦時模様同等の時に際して「一般論ほど役に立たないものはない」と十二分に知りつつもそれでも尚我々が一般論を口にしてしまうのは何故か？

思うにそれは

「一般論しか持ち合わせていないから」ではないでしょうか。

どういうことかと申し上げますと

それこそ「一般的な」公理として

知識 x 経験 = 智恵

という式が成り立つとすると、

経験が少ないと出てくる智恵の大きさや智恵の数が小さく又は少なくなります。

「智恵」というのはその場の状況やその状況の変化に適した「具体的な解」と言い換えても過言ではありません。

有効且つ的確な意見や指示を出すためには知識に経験を加えた智恵が必要なのです。

それが無いのに、智恵を大きく見せたり多く見せたりするには上述の公式に於ける第一項の「知識」を飾り立てたり、何度も同じ知識を口にするしかなくなります。

つまり経験が少ないと「具体的な解」からどんどん遠ざかり、一般論（経験の裏付けを伴わない未検証知識の目次だけの様な物の集まり）がどんどん膨張する事になる訳です、公理公式からして。

(現に我々のアタマの中には無意識ながらこの公理公式があって知らぬ間にこのメカニズムに従って行動や発言をしている様です)

このような事情から知らぬ間にどんどん増殖し続ける「いざという時にまるで役に立たない一般論」をそれに抗して減らす為には、我々は上述の公式における第二項の知識の取捨選択の基準となり、その裏付けとなる「経験」をより多く積む必要があります。

ところがそれを阻む物があります。

「リスクテイクしない文化」

もっと具体的に言えば

「自らが他人への失敗や異質異端を許容しない不寛容な姿勢であるが故に自ら自身が何か

をする前に自分がしている不寛容さを相手も抱いている筈だと邪推し、己の抱いた不寛容さと同等又は倍返しの相手による逆襲を恐れて、失敗する事や異質異端になる事を極度に恐れる文化」

です。

そこから推察するに我々がこの文化を打破しないままでいると、十年も経たずして我が国民は知恵の深みと奥行きのあるでない「一般論しか語らないとてもつまらない国民」そして「一般論故に話が何もかみ合わない国民」になってしまっている様な気がします。

これは

「大変マズイ事だ」

と陰ながら深く憂慮しております。